

「考える力」をはぐくむ授業を!

学習指導研修会の
授業から学んだこと

置賜教育事務所では、教科研究プロジェクトチームを組織し、『考える力』をはぐくむ教科指導改善研究会」による研究を進めて参りました。その提案として、5回の「学習指導研修会」を実施しました。提案性ある5つの授業からはもちろんのこと、参加者による研究協議からも学ぶ点は非常に多く、どの回も大変充実した研修会となりました。

今回は、研究協議から見えてきた5つの授業実践の成果をまとめてみました。



中学校数学（10月7日）3学年 図形と相似 米沢市立第六中学校 授業者 植木 修 教諭

三角形の相似条件を知り、2つの三角形が相似であることを、相似条件を使って考えることができる。

《参加された先生方の声》

- 教師からの一方的な説明でなく、生徒から生徒への説明の方がお互い学び合えると思った。
- ジグソー法により一人一人に役割があり、少人数のグループで話し合うことで、生徒が精一杯考えようとしていて、意欲的に取り組んでいた。
- 途中まででも説明しているうちに整理がつき、考えを深めることにつながった生徒がいた。伝えようとするのが大切だと思った。
- 話形にしばられることなく、自然なやりとりの中でこそ思考や表現が高まり、磨かれていくことがよかった。
- 小学校の既習事項を十分理解しておくことで、「既習事項を活用して解決する」場面を設定することもできる。小・中の学びの系統性を大事にしたい。



中学校外国語（10月16日）1学年 Unit6 ベッキーのおばあちゃん 南陽市立赤湯中学校 授業者 長澤 由美子 教諭

英語で相手に伝える際に必要な要素について理解し、間違いを恐れずに発表したり質問したりできる。
三人称単数現在形を用いて、身近な人や興味のある人について紹介したり、紹介文を書いたりすることができる。



《参加された先生方の声》

- 授業開始のあいさつからジェスチャーをしている生徒が何人もいて、体を使って表現できる雰囲気ができていることを感じた。
- 興味のある対象についてスピーチをすることで、意欲的に文を作ったり、話したりすることができる。
- 生徒が自然にした行動や発言の中で望ましいことを教師がすぐに拾って褒め、全体で共有していたのが素晴らしかった。
- 本時の活動のゴールの姿、相互評価の判断基準が全員で共有されていることがよかった。生徒にとっても話す側、聞く側の評価ポイントが明確だと意欲につながることがわかった。
- 活動時のより効果的なグルーピング（人数や目的）と、相互評価のあり方についてさらに吟味したい。

小学校算数（10月19日） 6学年 比例と反比例
南陽市立沖郷小学校 授業者 早坂 憲明 教諭

比例関係を利用し、単位量と全体の重さや高さから、全体のおよその数を求めることができる。

《参加された先生方の声》

- 日常の中の算数という点から、封筒の枚数を考える問題は実感を伴いながら理解できるよい題材だと思った。
- 最後の「いやあ助かった！」の教師の言葉は、「封筒は600枚ある」を解決した子ども達にとって「解いてよかった！」という思いにつながった。
- 課題解決のために必要な数値は何か、それは何のために必要なかを考えることは、解決の見通しを持ったり、情報を整理する力をつけたりすることにつながると思った。
- 必要な情報以外にも数値を与えて、児童が必要な情報を選択して求める提示の仕方について学んだ。
- 「比例の関係をええそう。」という思いを十分に持たせたい。「表」を全体で取り上げることで、確かな理解と思考の広がりにつながったのではないかな。



中学校国語（10月28日） 1学年 話題をとらえて話し合おう
米沢市立第四中学校 授業者 今井 美和 教諭

必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理することができる。

話し合いの話題や方向性をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして自分達の考えをまとめることができる。



《参加された先生方の声》

- 話し合いの必然性をもたせた題材の設定があることで、自分の思いやこだわりを持って話し合いに参加できる。
- 話し合いの流れを可視化することや役割分担の重要性について学んだ。
- 話し合い活動では、目的意識がとにかく重要だということ。その目的や目指す姿を指導者と生徒が共有することが、課題意識の持続につながる。
- 中学校の話し合いの学習は、ねらいは違っても小学校と共通している点がほとんどである。スパイラルな学びや積み上げの大切さを実感した。
- どんな話し合いをさせどんな言葉を選ばせたいのかを教師が持っていること、生徒もどんな話し合いが良いのかを分かっていることが大切だと思った。（言語能力を発揮する生徒の姿を具体的にイメージする）

小学校理科（11月19日） 6学年 てこのはたらき
米沢市立松川小学校 授業者 水野 幸司 教諭

てこをつり合わせる実験を通して、てこをかたむけるはたらきは、力の大きさ×支点からの距離で表せることを見い出すことができる。

《参加された先生方の声》

- 子ども達がたくさん体験できる環境をつくることで、好奇心をかき立て次の課題につながっていく。
- 共通実験でやり方を確認したうえで任意実験を行うという流れが、子ども達に考える力を付けるために効果的であった。
- 課題設定から仮説まで、子どもと対話しながら進めていた。子どもの目線で授業をつくっていきたいと思った。
- 一人一人の学びの場、考える場、交流の場がしっかり保障されていた。
- 少人数による実験は良い。多様な考えや多様な言葉が出てきている。
- 大きく子どもに任せて授業は進んだが、子ども達の思考の方向をそらせるために、要所で全体の話し合いや確認があってもいい。

